

名古屋記念病院

長谷川 真司 院長



取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

新院長に聞く。 これからの名古屋記念病院の取り組みについて。

名古屋記念病院(名古屋市天白区平針)の院長に長谷川真司小児科部長が就任した。

病院経営は診療報酬の改定や消費税のアップなど厳しい環境にある。

そこで、長谷川院長に質の高い医療の提供やがん医療、地域医療、小児医療、救急医療といった身近な医療などこれからの名古屋記念病院の取り組みなどについて話を聞いた。

Q. 院長就任の抱負を述べてください。

長谷川院長 / 正直言って大変な時期に大役を担うことになりましたが、これまでの歴代の院長が築かれてきたものを十分に生かしながら院長としての責任を果たしていきたいと思っています。

Q. 病院経営に直結する診療報酬の改定や消費税がアップしましたがどのように対応していきますか。

長谷川院長 / 今回の診療報酬改定・消費税率引き上げは政府が進めている社会保障と税の一体改革の中で、医療機関の「機

能分化・強化と連携及び在宅医療の充実」すなわち地域全体でのケアがより求められています。わが国の2025年超少子化高齢化社会での医療提供体制を見据えたものだと思います。

従って、地域全体のことを念頭に置き、名古屋記念病院の果たすべき役割を考えて取り組まなければならないと思っています。

Q. 患者さんへの影響は出ていますか。

長谷川院長 / 診療報酬の改定で初診料などが若干負担増になってはいますが、名

古屋記念病院としては、極力患者さんに負担をかけないという姿勢で臨んでいます。

Q. 名古屋記念病院の特徴を上げてください。

長谷川院長 / 名古屋記念病院は開院以来、がんと免疫を中心に取り組んできました。近年は社会医療法人の承認を受け、地域医療支援病院、愛知県がん診療拠点病院、災害拠点病院などの認定・指定を受けており、地域の中核病院として急性期医療を行うほか、公的な役割を担うようになってきました。